

洛友会会報

京都大学工学部電気系教室内
洛友会
京都市左京区田中大塚町49
075-701-3164

祇園祭雑感

副会長 大嶋 幸一 (昭19卒)

平成5年度洛友会総会(5月21日)に於いて、新たに池上文夫先生と共に、副会長に推挙されました。誠に光栄に存じますと共に、責務の重大なるをあらためて痛感している次第です。就任しました上は諸先輩のご指導とご援助により任務を果す所存でございます。さて、早速大谷会長より会報への投稿のお話があり、その節、7月は地元京都の祇園祭の時期に当り、然も私が山鉾保存会の会長を務めていることを書いては、とこのことで祇園祭雑感として筆を執らせて頂きます。

祭の原点としての祇園祭
鬱陶しい梅雨空が明けると雲の

われ目から眩しいばかりの日差しが差し込み、京の街角に一気に祇園祭の気配が立ち籠める。私の生家は天保年代から四条通りの山鉾町の中心にあつたことから、7月に入ると先祭の17日の山鉾巡行、前夜祭の宵山が待ち遠しくて幼い頃から夏祭の血が騒いだものである。

迎えられたのである。この荒ぶる神を宥めるために神の喜ばれる歌舞音曲を奏で、山車に矛を立てて美々しい行列を演出し、自分たちに幸福を招き入れる、これが御霊会で、祇園祭の始まりであり、日本の祭礼の起源でもあつた。これを模した祭りは、飛騨高山、近江長浜、丹波篠山などいくつもある。この華麗な祭礼は、よほど日本人の気に入つたものと見える。

山鉾が今見るような豪華な飾りや、だしものを備えるようになったのは南北朝から室町時代(十四、五世紀)の頃であるが、時恰も応仁の大乱(一四六七)で町は悉く焼野原となり山鉾も大半が失われたが、明応9年(一五〇〇)町衆の手で再興され、更に安土桃山時代(十六、七世紀)に入ると乱世も治

まり、海外との貿易も栄えて京の町々は富裕な下京の町衆が財を惜しまず祇園祭の繁栄につとめ、今日見られるような国内外で作られた豪華な毛綴錦織の見送りや唐織の胴掛が備えられるに至つた。その後も王城としての京の都は時の権力者の抗争で保元(一一五五)平治(一一五九)応仁・文明などの数々の乱に、また江戸時代には宝永(一七〇八)天明(一七八八)元治(一八六四)の三たびの大火で多くの山鉾が失われたが、その都度町衆の力で復興されると共に、その度に前にもまして創意と工夫が凝らされ益々見事なものが作られたことは並々ならぬ氏子のご祭神への信仰の心と伝統継承の熱意によるものであろう。



四条傘鉾 山第壹番



四糸傘鉾と初体験の
圖取り式のこと

「祇園祭最大の神事、山鉾32基、巡行の順番を決める二日のくじ取り式。最後の四糸傘鉾保存会の大嶋幸一会長に順番が回ってきた時、残りくじは「山一番」だった。壇上に立つ奉行役の田辺朋之京都市長と視線が合った瞬間、にっこり。大嶋会長は市長からくじを受取る、振り返って市会議場内に響き渡る声で「四糸傘鉾、山第一番」と力強く読み上げた。幸先よく二年ぶりに巡行復帰を果す同鉾が一番くじを引き当てた幸運に会場から大きな祝福の拍手が起きた。

二年前の7月3日の朝刊に保存会長就任直後の私の初体験のくじ取り式の記事である。私の町、傘鉾町は、平安京時代に東西に通る「四糸大路」の両側、



町の地名に由来し、平安京時代には貴族中納言・藤原資長郎、戦国の世では、宮本武蔵と剣を競った名門吉岡憲法道場があった。この地に創建された「四条傘鉾」は創期は古く、「洛中洛外四屏風」「祇園祭礼図巻」等々に絵図として描かれている。この傘鉾は一般の鉾山と異なる形式の鉾で山車に、風流傘を立て「傘踊り」を（棒ふり2人、鉦、太鼓、鼈各2人、計8人）の子供達が淡いグリーン色の絹の着衣、印度更紗の袴、色鮮かな襷掛け、薄化粧で祇園囃子に合せて踊る姿はまことに可憐であり、見る人の心を和ませる。

宵山の屏風祭

平素は閉ざされている京都独特の奥深い室町筋界隈の町家は、宵山の二、三日は軒下に幔幕を張り夕暮になると駒形提灯に灯が入られ、格子戸を開け放つて通りからでも眺められるという風情別名、「屏風祭り」が何よりの楽しみです。広い奥座敷のぼんぼりに

明りが燈され、目には鮮かな幾双もの屏風の前に家宝の美術品や竹内栖鳳、横山大観、富岡鉄斎、梅原龍三郎、鈴木松年、山口華揚などの作品や掛軸、西陣織の逸品が披露され、庶民の眼を楽しませてくれる。

梅原画伯と山鉾のこと

洋画壇の巨匠梅原龍三郎画伯は隣の町内芦刈山町「謡曲」芦刈より名付けに生家がある。（織田信長はこの山に能装束を寄進し、祇園祭を観るために近くの本能寺に泊っていた。先生の梅原調といわれる色彩は祇園山鉾の前掛や見送りの掛装「タピスリー」に見る色彩的特徴と実によく一致している。梅原先生は浅井面塾から渡仏してルノワールに師事されたが、梅原さんの生来の色彩的感覺はルノワールより遙かに先立って祇園山鉾によってすでに目覚められていたと言われる。言うに言えない粹なハイカラさ、かすかな野暮ったさ、日本の美の故郷京都の赤といわれる赤色。真つ赤な噴煙を吹き上げる「浅間」や「北京秋天」の名作に見られる。梅原色彩は祇園祭の夢の地色の現われといわれるのも宜なく哉である。

結び

現代の祇園祭は京都観光の一大シンボルになっている。それも悪くない。見物客が多ければ多い程、

またそれを意識して山鉾が立派なものになればなる程、御霊祭の本義になかったものになるのではなからうか。

今日は6月20日、そろそろ梅雨も明け夏が近づいてくる。京の街には、やがて、あのコンチキチンの鉦の音が聞えてくる。4月初めから練習に練習を重ねた学童達の「傘踊り」や祇園囃子の成果を炎天のもと都大路で披露する日もあとわずかである。この一日は子供

会員動向

第34回藤原章に

高木俊宜(昭22卒)氏



藤原科学財団は平成5年6月1日、第34回藤原賞にイオン工学研究所長、高木俊宜氏に贈ると発表

達にとつて生涯忘れ得ない想い出の一日となる。

(追記)

今年の山鉾巡行の順番を決める「圖取り式」で、幸先よく「山第一番」を引き当て奉行役・田辺市長より免状を授与されました。一昨年の一番札に続く稀有の好運で、今年の洛友会の発展と会員の皆様の多幸を象徴するものと確信し祈念する次第です。

された。

贈呈式 6月17日(木)

場 所 日本工業倶楽部(東京研究テーマ「イオン工学技術の開発」)

略歴

- 出身・山口県
- 昭和22年京都帝国大学工学部電気工学科卒業
- 同大学院特別研究生として研鑽
- 昭和24年神戸工業(現、富士通)に入社
- 昭和26年工学博士
- 昭和40年京都大学工学部教授就任、電子工学教室電子装置講座

担当

○昭和53年工学部附属イオン工学実験施設を設立され、イオン工学実験施設長(兼任)

○イオン工学に関する国際会議を実行委員長として開催

○電気学会副会長・同関西支部長、応用物理学会理事、同評議員、応用科学研究所理事、イオン工学振興財団理事など歴任

○昭和63年京都大学退官後名誉教授、(株)イオン工学研究所取締役研究所長

○昭和61年科学技術庁長官賞(功労者賞)受賞

○昭和63年紫綬褒章受賞

業績

亀裂が入ると自分で修復してしまふ材料、温度と明るさに応じて光の透過する量が変わるガラス、体温が高いと溶ける薬のカプセル。夢のような材料の開発が「イオン工学」の手法によって始まっている。そのかぎとなる技術が、原子が百〜二千個ほど集まった塊(クラスター)を基板にぶつけて結晶を成長させる「クラスター・イオン・ビーム(ICB)技術」だ。その基礎理論から装置の開発までこぎつけたのは高木さんが世界で初めて。

イオンは電気を帯びているため、電界の中で加速できる。高木さんはクラスターに電子のシャワーを

浴びせてイオン化して加速する新たな技術を開発した。設計した薄膜を物質の表面に自由に作れる。高木さんにとって、はじめはイオンはむしろ敵だった。神戸工業で取り組んだのは、リーダーに使う電波を発生させる真空管の製造。真空管にとって、イオンは電極を損傷させる厄介者。いかに発生を抑えるかが重要な研究の一つだった。

40才の時、電子装置の新設講座に教授として迎えられた京大で、「人と違う研究を」という信念の下、イオンを製造技術として見直したら、と思いつく。だが、素粒子などと比べてケタ違いに重いイオン・クラスターの加速器など世界のどこにもない。最初の加速器は、徹夜をしながら自分で設計、装置製造メーカーを訪ね回り、やっと一社、未知の分野にしり込みするのを口説き落とす。

さて、装置は出来たが、順調に動かすまでは試行錯誤の連続で、徹夜に次ぐ徹夜。クラスターを基板にぶつける適正な条件探しに明け暮れ、学生からは「あの研究室に行くとか殺される」といわれた。しかし、成果は着実に蓄積され、クラスターの元も金属、半導体、有機物と広がり、実用技術として使えるメドも立ってきた。20年間に書きまくった論文は厚さ50cmを

超える。

専門誌で「イオン工学」という言葉を最初に使ったのも高木さん。昭和58年、イオン工学をテーマに、高木さんが京都で開いた国際会議には、24ヶ国から750人もの研究者が参加、イオン工学は学問として認められた。昭和63年には大阪府などと民間企業の共同出資でイオン工学研究所が設立され、高木さんはその取締役研究所長に。

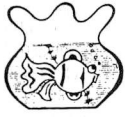
外国の技術のモノマネばかりが目立つわが国で、高木さんが求めたのはあくまでも獨創性。「まあ走りづめに走ったんや。頭を使う分には、どっこも疲れへんやないですか」。年齢より10歳以上も若く見える顔が輝いた。

平成5年6月2日、讀賣新聞特集、西寫徹記者記より

関西電気協会会長に

森井清二(昭24卒)氏

平成5年5月14日通常総会において、関西電力(株)取締役副会長森井清二氏が関西電気協会会長に就任されました。



電気系教室だより

阪大・京大電気系教室

スポーツ大会

日時 7月19日(月)
13:30~18:00

場所 関西電力水無瀬体育施設

競技種目 野球・ソフトボール・テニス・バレーボール

卓球・5種目恒例の阪大戦との交歓スポーツ大会が、行なわれます。また懇親会費千五百円です。奮って参加してください。(問合せ753-1527〇岩中まで)

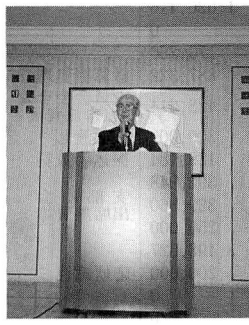
総会報告

平成5年度洛友会総会

平成5年度総会は、5月21日(金)午後4時30分より東京目黒の八芳園において、69名参集のもとに行われた。

今年の総会は東京支部と合同で開催し支部総会の後行われた。

恒例により議長兼司会は近藤副会長兼常任幹事で始まり、開会挨拶は大谷会長が平成4年度の各支部の活発な行事活動に対し、特に東京支部の活動に対し感謝を申し上げる等お話しがあり、今年の名簿の発刊年度になっているので広告募集に努力してほしいと要望された。続いて同常任幹事より平成4年度事業報告、平成5年度事業計画、役員改選(別項参照)の説明があり、次いで矢木原事務局長より平成4年度収支決算報告、平成5年度収支予算案の説明があった。



以上各案件を審議の結果それぞれ原案通り可決されました。なお平成4年度決算および平成5年度予算については別表をご参照ください。

引続いて木村教授から京大電気系教室の現況報告として、電気系学科および関連部門の教官説明があり、電気工学科の西川禎一教授が工学科長に就任され、電気工学科は佐々木教授、電子工学科は小倉教授、電気工学第二学科は奥村教授が教室主任に、他校九大より松重教授、外国人の講師を迎えた等教官の移動説明があった。また京都大学の組織変更で教養部の改組、工学科の改組に対し重点説明をされた。次に、平成4年度卒業者の進学就職状況の説明があった。(詳細は会報4月号参照ください)

平成4年度収支決算
平成4年4月1日から平成5年3月31日まで

平成4年度収支決算
平成5年4月1日から平成6年3月31日まで

収入の部 (単位:円)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 備考. Rows include 会費(学部), 預金利子, 広告掲載料, 雑収入, 収入小計, 前年度繰越金, 合計.

収入の部 (単位:円)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, H4年度決算額, 備考. Rows include 会費(学部), 預金利子, 広告掲載料, 雑収入, 収入小計, 前年度繰越金, 合計.

支出の部 (単位:円)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, 決算額, 備考. Rows include 名簿編集費, 印刷費, 会報編集費, 通信費, 会費, 総会費, 旅費, 事務人件費, 雑費, 支出小計, 次年度繰越金, 合計.

支出の部 (単位:円)

Table with 4 columns: 科目, 予算額, H4年度決算額, 備考. Rows include 名簿編集費, 印刷費, 会報編集費, 通信費, 会費, 総会費, 旅費, 事務人件費, 雑費, 支出小計, 次年度繰越金, 合計.

Table with 2 columns: 預金及び現金, 平成5年3月31日現在. Rows include 普通預金, 定期預金, 当座預金, 合計.

平成5年5月18日、応用科学研究所において、領収書、帳簿等関係書類を慎重に監査し、支出及び決算が適正であると認めました。

教室幹事 木村 磐根

洛友会役員改選通知

5月21日、本部総会において左記のとおり改選されました。退任(退)及び新任(新)を含め役員名は次の通りです。(任期は2年)

Table with 4 columns: 幹事, 顧問, 副会長, 会長. Lists names and terms of office for various roles.

東京支部役員改選通知

平成5年度東京支部総会において左記の通り役員の変更がありましたので通知致します。

記

- 支部長 昭27 重本直三(退任)
- 昭28 武藤良介(新任)
- 副支部長 昭28 近藤貞吉(新任)
- 昭48 谷口治人(退任)
- 総務幹事 昭49 嶋谷吉治(新任)
- 昭50 横川文彦(新任)
- 会計幹事

関西支部会則改正及び役員改選通知

平成5年度関西支部総会において会則の一部改正され、役員任期を、支部長ほかの任期を2年から1年に変更する。となった。さらに、左記の通り役員の変更がありましたので通知致します。

記

- 支部長 昭24 森井清二(退任)
- 昭25 藤島 啓(新任)
- 副支部長 昭26 寿栄松憲昭(新任)
- 昭37 浅野 尚(退任)
- 昭46 荒井晴市(新任)
- 昭46 辻村順一(退任)
- 昭54 馬淵恭樹(新任)
- 会計幹事

北陸支部役員改選通知

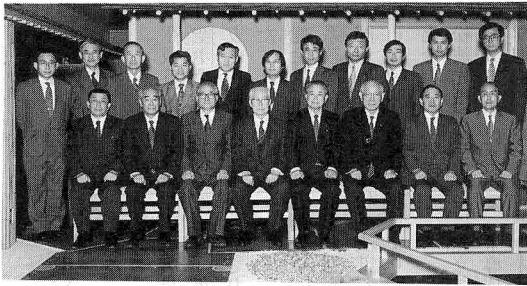
平成5年度北陸支部総会において左記の通り役員の変更がありましたので通知致します。

記

- 支部長 昭24 野村精二(退任)

支部総会

北陸支部総会



平成5年度 洛友会 北陸支部総会 平成5年4月17日 於 銀橋

- 副支部長 昭28 川端 昭(新任)
- 昭28 杉本 宏(留任)
- 昭28 村本 浩(留任)
- 昭39 羽場保弘(留任)
- 昭40 院柴田 明(留任)
- 昭40 田辺俊雄(退任)
- 昭41 宮越政通(新任)
- 昭50 船越利之(退任)
- 昭55 白江孝俊(新任)
- 幹事

平成5年4月17日(土)、富山市根塚の銀橋において、平成5年度洛友会北陸支部総会が開催された。総会は、本部より大谷会長、教室から卯本先生をお迎えし、北陸地方各地から野村支部長をはじめ17名の会員が出席しました。

野村支部長の挨拶ではじまり、支部近況報告、支部決算報告の説明があり、承認されました。続いて、役員改選が行なわれ、左記の役員が改選されました。

- 顧問 昭24 野村精二(新任)
- 昭28 川端 昭(新任)
- 昭40 田辺俊雄(退任)
- 昭41 宮越政通(新任)
- 支部長
- 幹事

昭50 船越利之(退任)
昭55 白江孝俊(新任)
役員を代表して、川端新支部長のご挨拶がありました。
次に、本部より大谷会長のご挨拶に続き、電気系教室の卯本先生より、平成4年度卒業生の進学就職状況報告と京都大学の教養部お

東京支部総会

平成5年度の支部総会は5月21日(金)、八芳園において開催されました。例年と異なりウィークデーの開催となりましたが、本部総会と同時間開催ということもあり、昭和4年卒業の大先輩から卒業後数年の若年会員まで合計69名が参加しました。

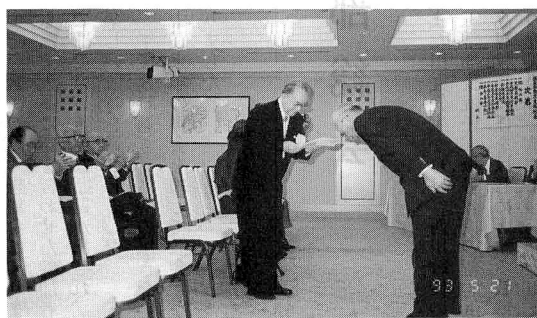
本部からは大谷泰之会長、近藤副会長、大嶋副会長、矢木原事務局長、教室からは木村盤根先生をお迎えしました。
支部総会は、重本支部長の挨拶に始まり、平成4年度の行事報告、決算報告の後、平成5年度の新役員を選出し、平成5年度の行事計画および予算が審議され了承されました。

続いて、平成5年度に米寿、喜寿を迎えられる11名(米寿2名、喜寿9名)の方々のお祝いを行い

よび工學部の改組等近況説明がありました。
総会終了後、記念撮影、懇親会に入りました。欲談に楽しい場を過ごし、再会を約し万歳で散会となりました。
(船越利之記)

ました。

総会後の懇親会は、武藤新支部長の開会挨拶、大谷会長の乾杯で始まり、今年米寿を迎えられる藤





宗寛治(昭和13年卒)から、「ご卒業前後の思い出や近況を承りました。現在もなお、悠々たる学究生活をお続けの中で電気評論の編集にも携わっていらつしやることなど、後輩にとって学ぶべき有意義なお話を聞かせて頂きました。」

当日はデルタ会の神戸様や関西支部の辻村幹事も駆けつけて頂き、東西の支部活動の比較なども含めて大いに懇談を行いました。話はずみ、名残はつきませんでした。話が、近藤新副支部長の挨拶によりお開きとしました。

(昭和49年卒総務幹事嶋谷吉治記)

中国支部総会

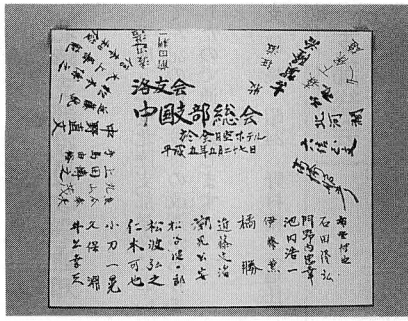
平成5年5月27日(木)、広島全日空ホテルにおいて、平成5年度洛友会中国支部総会が開催されました。

総会は、本部より近藤先生、電気系教室から松波先生をお迎えし、中国地方各地からは松谷支部長をはじめ約30人の会員が集まり、盛会となりました。

松波先生には、総会に先立ち、中国電力(株)において「半導体材料の進展―エネルギー変換材料を中心として―」と題する講演をしていただきました。日進月歩の著しい半導体材料について、基礎から研究の最前線までわかりやすく

説明していただき、聴講者一同あらためてよい勉強をさせていただきました。

総会は、牧幹事の司会で、松谷支部長のあいさつから始まりました。まず支部事務局から、一部役員改選案、平成4年度会計報告、平成5年度予算案の説明が行なわ



九州支部総会

れ、満場一致で承認されました。続いて、支部活動状況と会員移動状況について報告がありました。次に、近藤先生から本部の状況報告を、松波先生から卒業生の就職状況等の教室報告をしていただきました。

議事が滞りなく終了し、別室で

5月28日(金)、博多駅前のホテル・ステーションプラザにおいて、平成5年度洛友会九州支部総会が開催されました。

当日は、本部から大谷会長、教室から田丸啓吉教授をお迎えし、主に北部九州の全員22名が参加しました。

総会は、まず立食パーティーで始まり、大谷会長、田丸先生を囲んでの歓談、久しぶりに会う会員同志の交歓などリラックスした雰囲気の中、歓談の合間を縫って、総会議事の平成4年度会計報告ならびに平成5年度役員選出、平成5年度九州支部行事の提案があり、承認されました。

引き続き、場所を変えて会食の懇談会に移り、大谷会長から総会報告を含めて、いつもながらの軽妙にして含蓄のあるお話を拝聴し、

の記念撮影の後、懇親会に入りました。久々に顔を合わせた参加者の間では、色々な話題が出され、楽しい一時を過ごしました。

午後8時過ぎ、名残の尽きない中、来年の再会を約して散会となりました。

(昭和61年卒熊谷泰美記)

また田丸先生からは、西川教授の工学部長就任、板谷教授の新居浜高専校長就任をはじめとする教室の近況報告を承りました。上田支



部長の「スライドによる郷土史紹介」昨年の好評に答えて今回は勤務地である熊本史跡を紹介されたもので、上田支部長の熱意と名解説に一同感銘をあらたにしました。(ちなみに昨年は御自宅のある太宰府市周辺の史跡が紹介されました。)

今回初参加の松本修文氏(九州工大)、今春卒業したばかりの新

四国支部総会

6月11日(金)、高松市内の旅館「新常磐」において第38回洛友会四国支部総会が開催された。本部からは大谷名誉教授(洛友会会長)、教室からは荒木教授のご出席をい



会員市川憲一君(九州電力)の自己紹介もあり、また仕事の御都合で現在大分市に居を移されている深町前支部長も久し振りに出席され、終始和やかな雰囲気の中で大いに話はずみしました。

(昭和38年卒、真栄城朝章記)

会も最高調に盛上ったところで残念ながら時間となり、次回の再会を誓って散会となりました。

ただ、四国内からは39名の会員が集まった。総会は船越支部長の挨拶で始まり、今回の総会は近年まれな盛会であることや、昭和8年卒の藤原泰彦氏の計報の後、昭和28年卒の板谷良平先生が新居浜高専校長として四国に来られ、新しく四国支部会員になられたことの紹介、また昭和28年卒の近藤耕三氏が四国電力株の社長に内定されたという紹介があり、出席者全員でお慶びを申し上げた。

次に大谷先生より挨拶があり、本部総会において本部役員が改選されたことや先生の近況などをユニモアを交えて話された。また、荒木先生からは今年の卒業生の就職状況や、大学の組織変更につい

ての紹介があった。

引き続き会務、会計報告、予算案審議が行なわれ、会務報告において今回新会員となり初参加の平成3年卒の吉本君(四国電力株)の自己紹介などもあり、無事総会は終了した。

引き続き懇親会に入り、先生方との歓談や久しぶりに顔を合わせた先輩や友人と酒を飲み交わしながらの談笑など、楽しいひとときを過ぎた。最後に全員が肩を組み、恒例となった「逍遙歌」と「琵琶湖周航の歌」の合唱で懇親会を終了した。

その後、荒木先生をはじめ有志一同は街に繰り出し、深夜まで電気工学談義に花を咲かせたり、自慢の喉を披露しあった。

翌日、大谷先生は高松市美術館の竹久夢二展を見学された後、京都へお帰りになり、荒木先生は栗林公園、瀬戸大橋を観光された。

以下は願化幹事と共に荒木先生をご案内した吉田先輩の同行記である。

(昭60年卒宮本喜弘幹事記)

翌日、荒木先生には、支部より願化(昭43卒)と吉田(昭59卒)がお供した。先生は20数年前学生の頃高松に来られただけとのことなので、まず栗林公園へご案内した。栗林公園では、菖蒲園、日暮亭

の茶室、偃月橋の見学をされた。

菖蒲園では、丁度身頃の菖蒲を見ることができた。荒木先生は、非常に茶室に興味をおもちのようので、日暮亭の茶室では、お供の二人に、いろいろと説明して下さった。庭を見ながらお茶をいただき、先生は満足そうであった。

その後、高松から坂出へは海沿いの道を通り、美しい瀬戸内海の景色、瀬戸大橋の遠景などを楽しみながら、与島へと向かった。

与島では、与島を一周し瀬戸大橋の下を2回通る咸臨丸に乗船し、真下から瀬戸大橋を見上げるその壮大な景色を実感されたご様子であった。この日は快晴で、陸上はむしろ厚かったのが、船上では潮風に吹かれて涼しく心地よい船旅であった。

その後、瀬戸大橋記念公園にある記念館で瀬戸大橋工事の写真、工事の新工法など各種展示を興味



深く見学された。

先生は、旅の疲れも見せず、元気に香川を後にされた。

(昭59年卒吉田明生記)

中部支部総会

中部支部の平成5年度総会は6月19日(土)16時から、名古屋駅前の名鉄グランドホテル・アイリスの間で開催されました。

本部・教室から大谷会長、安陪

らは大正13年卒の大先輩から本年卒業の新会員まで15名が参加しました。

大野支部長の挨拶の後議事に入りました。まず支部役員について2名の副支部長の内、大杉幹氏が

健康上の理由で辞任されたが補充せず、他は全員留任とし、原案どおり可決されました。次に平成4年度の事業報告と5年度の事業計画並びに平成4年度会計報告と5年度予算案が一括してはかられ、満場一致可決されました。

総会について安陪教授から教室の近況、大学の機構改革についての詳細のご説明があり、大谷会長から本部総会のご報告と各支部の動きについてお話があり、懇親会に入りました。

懇親会では洛友会発足が昭和27年であり、ついで支部第一号が中部支部で同年にできている。というお話から本多顧問(大13年卒)が初代会長の鳥飼利三郎先生が工学部系ではじめて京大総長となられた当時の秘話が被露され、続いて恒例の自己紹介と近況報告になりました。久し振りに若手会員の出席を得て、懇親会は大いに盛り上がり予定時間を遙かにオーバーして散会しました。

なお、中部支部の本年度事業予定は別掲のとおりです。奮ってご参加ください。

(石川進総務幹事記)



各支部行事(予告)

一、中部支部行事

①懇親ゴルフコンペ
期日 9月11日(土) 4組
場所 名古屋グリーンCC
会費 約2万3千円(当日)

②家族同伴秋の例会

日本最高地の山城、岩村城址に歴史と秋を探り、大正村(明智町)に大正ロマンを尋ねる。

日時 11月13日(土) 9時30分

出発、17時頃帰着予定

集合 地下鉄藤ヶ丘駅前

(瀬戸観光貸切バス)

会費大人6千円、児童3千円

二、関西支部行事

○第60回ゴルフ競技会

期日 10月3日(日) 10組
場所 武庫之台ゴルフ場
会費 約2万3千円(当日)
連絡先幹事関西電力花田まで

会員寄稿

ルーブル博物館でミロのビーナスの説明を聞いて

吉田芳正 (昭24卒)

平成5年6月3日、フランス、ルーブル博物館で、ミロのビーナスの前に「このビーナスは顔が小さ過ぎ腰が太過ぎ」と言う誰でも感じる説明を聞いて、この言葉の真理にひどく感銘した。帰国後もう一度30年前の京都市立美術館のフランス美術展を振り返りつつ、その意味を検分し、この感じこそ鍛錬された歴史家のものであることを知った。次の言葉がこのことを理解させてくれる。

ミロのビーナスは、人類の感性発達の歴史における一段階を特徴づける希な傑作である。危険をおかして日本で展示(二九六四)するのは、人類が自らをよりよく知り、よりよく理解する手助けをすることであり、こんな気高く、ふさわしい理由が他にあるうか。真の文化はただ一つ。他の社会の文化を、ただ珍しく、美しいとしか見ようとしなないのは、分割孤立社会の古い見方。魂なき技術に見とれて、

踏みつぶされないうちに、主要な諸文化のさまざまな要素を総合し、集積するのでなければ、すなわち自己の境界を廃し、他の尊重することを理解し、または愛すること。ミロのビーナスが、他国ギリシャ、東地中海ミロ島からフランスに渡り、モナリザが他国イタリアからフランスに渡った。このことが文化の精髓であって、今ビーナスは、フランスから日本に渡っている。これは一九六四年フランス国立博物館長ジャン・シャトランの言葉である。

注・ビーナスという名前は、魅力を意味する。菜園、庭園の女神であった。後にギリシャの愛と美の女神アフロディテと同一視される。アフロディテは、古代オリエント地方(セム族)の豊饒と繁殖の女神からきている。東地中海地方のキプロスからギリシャにきたもの。ビーナスの内容は後者である。このビーナスは東地中海ミロ島で一八二〇年頃発見された。

(京都市立美術館資料より)

編集後記

会報七月号は例年通り総会特集になりましたが、各支部での総会概要がよくわかります。近年支部活動もそれぞれ活発になってきています。役員の方々のご熱意に感

謝を申し上げると共に、会員の皆様も積極的に支部行事にご参加の程お願い申し上げます。

本号の巻頭言は大嶋幸一新副会長に京都の祇園祭について書いていただきました。歴史発見ではないが伝統ある祇園祭の細部についておしえていただきました。今後共四条傘鉾保存会会長として伝承方お願い申し上げ、厚くお礼申し上げます。今年の祇園祭が楽しみです。

次に会員の諸氏からの便り、近況報告などどしどしお寄せくださいます。写真も大歓迎します。

(事務局局長矢木原邦雄記)

計報

講10	寺本 祐	5.4.10
大13	高島正一	5.2.21
昭6	長安 実	5.2
講昭8	柴田 学	3.1
講昭9	井上周命	4.12.9
講昭12	細川信雄	5.1.25
昭15	鈴木太左衛門	5.4.2
講昭15	安藤 茂	5.4.15
昭22	坂元宣哉	4.12.8
昭23	鈴木政治	5.4.1
昭52	巴月良一	4.12.29

以上の方々のご逝去なきを哀悼の意を表します。